組織のソフトウェア開発成熟度を向上させるプロセス改善

佐々木　誠*
真野哲也**
小林正幸**

要　旨

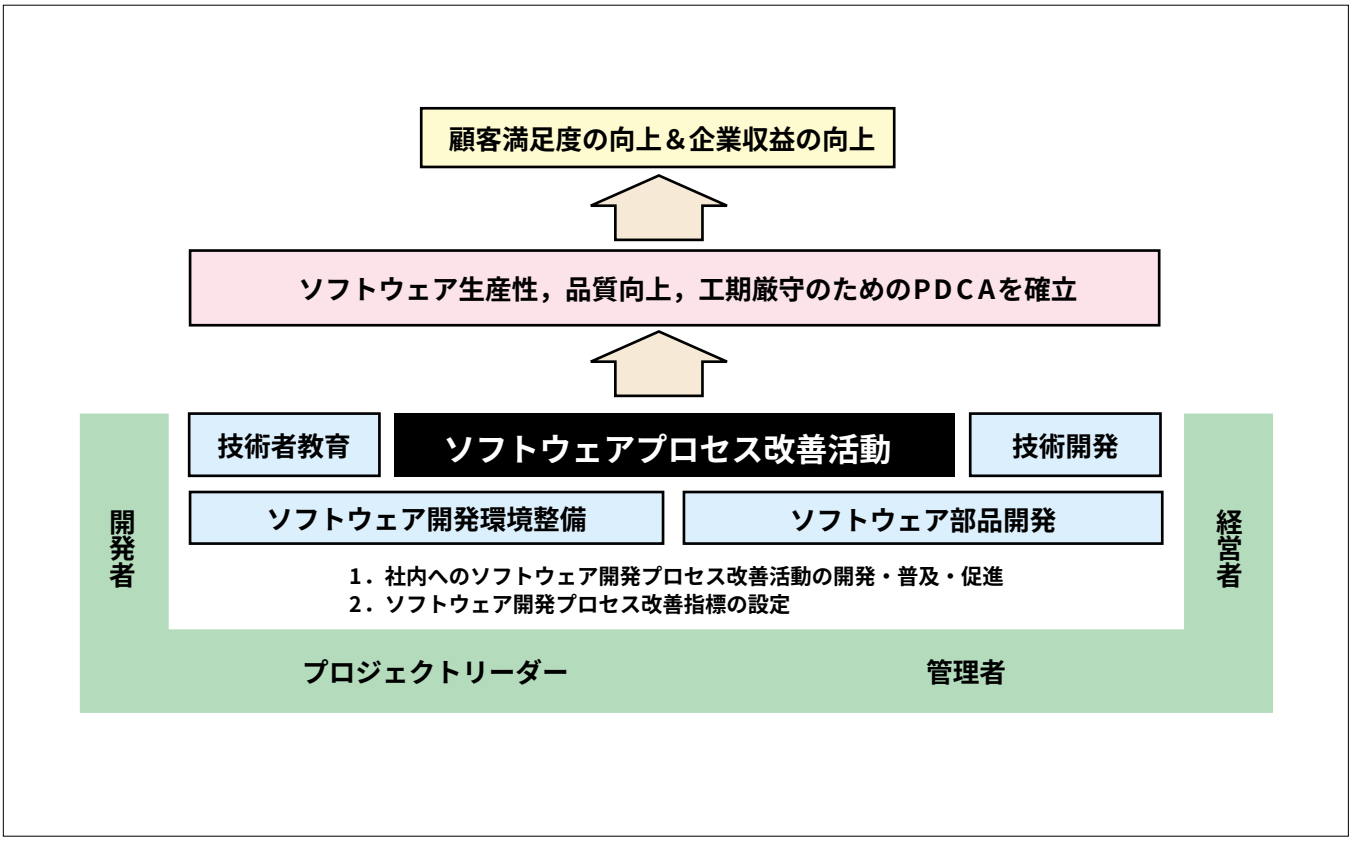
ユビキタス社会の到来によりIT(Information Technology)技術の普及が進み，IT製品やITソリューションの効率的な提供が企業にとってますます重要になっている。IT技術を支えるソフトウェア開発も，中国，インドなどアジア諸国のソフトウェア開発労働力の活用，CMM(注1)(Capability Maturity Model)などに代表されるプロセス改善活動が一般的になるなど，その取り巻く環境は大きく変わりつつある。

また，三菱電機では，ソフトウェアはソフトウェア製品の形で，又は製品に組み込まれた形で当社製品の広い範囲に適用されており，大小様々な規模の開発プロジェクトチームにおいてソフトウェア開発を実施している。これらのプロジェクトチームを円滑にかつ効率的に推進させるために，様々な活動を展開している。

本稿では，顧客満足度や企業収益の向上を達成するために当社が実施している技術者教育，ソフトウェアプロセス改善活動，技術開発，ソフトウェア開発環境整備，ソフトウェア部品開発といった諸活動のうち，ソフトウェアプロセス改善活動に着目してソフトウェアプロセス改善活動に関する実践状況を紹介する。

当社では幾つかの事業所や関係会社においてソフトウェアプロセス改善活動に既に取り組んでおり，ソフトウェアプロジェクト管理の徹底やソフトウェア構成管理，ソフトウェア品質保証を事業所や関係会社の置かれた状況に合わせて実践している。これらの活動の結果，CMMレベル３の認定を受けた部門もあり，確実に改善が進んでいる。

（注１）　CMMとCapability Maturity Modelは，米国Carnegie Mellon大学の商標である。



顧客満足度及び企業収益を向上させる活動

ソフトウェアの生産性向上・品質向上・工期厳守を常に達成できるようにするために，開発者，プロジェクトリーダー，管理者，経営者が一丸となって組織の力を充実させることが重要である。そのためには，標準開発プロセスを設定するソフトウェアプロセス改善活動，標準開発プロセスや設計技法／試験技法を開発者に定着させる教育，ソフトウェアに関する新技術開発や開発環境整備，部品開発などを継続的に実施していかねばならない。

*生産技術部　**設計システム技術センター